

令和3年度「志教育」実践事例

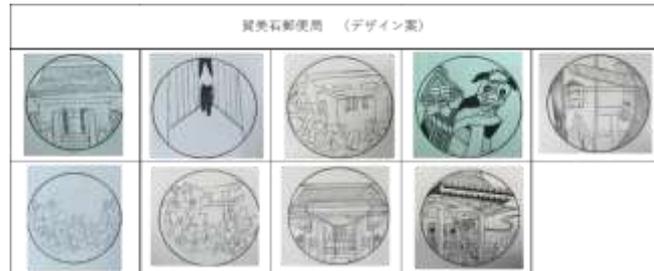
学校名	宮城県中新田高等学校	学年・教科等	総合的な探究の時間他
〈活動名〉 加美町研究（1年）		〈実施日〉 通年	
<p>〈志教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学習を深め、自らの学びとの関連及びその活用方法を考える。（もとめる・はたす） ・活動を通して、将来必要となる資質や能力を意識し主体的・協働的な学びを行う。（かかわる・もとめる） 			
<p>〈実践の概要〉</p> <p>1 具体的な活動の流れ</p> <p>ワークシート等を利用し、自己理解を深め、社会に生きる人として求められる資質や能力を学ぶ。また、自作の資料を使い加美町の「自然・人口」「産業(農業・工業・商業・観光)」について、現状と課題の理解を深める。その後、担当教員から課題を出題し、自身が興味関心の深い課題で班編制を行う。さらに、班毎にテーマ設定を行いグループ討議、調査、中間報告等を通して課題の整理と報告書をまとめ発表会を行う。最後に活動報告集を作成し、まとめとする。</p> <p>(1) 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート・パワーポイントによる自己理解の学習 ・加美町の現状の学習（講義+ワークシート+パワーポイント） <ol style="list-style-type: none"> ① 加美町を知ろう（自然・人口） <ol style="list-style-type: none"> 1 加美町の土地 A 土地について B 宮城県・全国との比較 2 加美町の人口 A 加美町の人口の変化 B 加美町の人口構造 ② 加美町の産業 <ol style="list-style-type: none"> 1 加美町の産業の移り変わり A 加美町の第一次、二次、三次産業 B 加美町の就業者の労働形態 C 外国人人口 2 加美町の基幹産業 A 加美町の農業 B 農家数の変化 3 加美町の工業 A 加美町の製造業 B 事業所数と従業員数の移り変わり C 企業誘致のための町の政策 4 加美町の商業 A 商店の数の移り変わり B あなたの家ではどこで買い物していますか C 地元商店街 VS 大型店 5 加美町の観光 加美町の観光資源 ・課題学習の進め方の確認 <p>課題に対する基本的知識の学習⇒学年教員団からの研究課題提示⇒研究課題の中から生徒が選択、グループ編成⇒課題解決策の検討・調査・実践⇒中間報告⇒再度研究内容の検討⇒課題解決策の検討・実践⇒まとめ（報告書作成・発表）</p> <p>2 実 践</p> <p>担当教員から上町に関係する研究課題を提示し、各自の興味関心が深い課題で班編制を行った。課題提示をした教員を指導者とし、班毎にテーマ設定を行いグループ討議、調査、中間報告等を通して課題の整理と報告書をまとめ発表会を行った。活動内容は、役場関係部署へのアンケート調査、風景印のためのデザインの制作、課題整理のための関係先へのインタビュー、地域文化研究、自然研究、歴史研究、前年度から継続した加美町に居住する外国人の方々に心地よく生活を送ってもらうための手助けをするためのニュースレターなどを作成し加美町のHPへ掲載されるなど班により様々であった。最後に活動報告集を作成しまとめとした。</p>			

・研究課題テーマ

①「風景印」のデザインを考えよう②「加美町の子ども達」③商店街の活性化について考えよう④加美町住民と外国人の共生⑤加美町の祭と歴史⑥宮城の伝統的工芸品⑦お出かけスポットの提案

(英語版加美町紹介～加美町ホームページより)

(風景印デザイン案)



3 事後学習〈成果と課題〉

1 成果

- (1) 自己理解の取組により、自身の進路について考える力を付けることができ、2学年の類型選択に生かすことができた。また、加美町を研究テーマとすることで基礎的な加美町について学習し、調べることにより後のグループ学習での基礎とすることができた。
- (2) 調査研究、提案活動などをおして、地域の現状と課題を把握し意識を持つことができた。また、課題のヒントを出題することによりグループでの活動時間を確保し、意見の交換やアイデアを出すなどの協働的な学びの実践に多くの時間を使うことができた。
- (3) 加美町役場や、地域の商店等の協力を得て研究活動に取り組むことができ、加美町ホームページで取組をご紹介していただいた。
- (4) 加美町の現状や課題を通して、テーマを設定し解決に向けて意見を出し合いながら提言することが出来た。

2 課題

- (1) 中間報告会を持つことにより、中間報告会で明らかになった課題や足りない部分を補うためにしっかりとした活動ができたが、内容の深化という面では課題が残る。
- (2) 毎年度行っている学習のため、前年度の結果も踏襲しさらに深めていくという取り組みが必要であるが、今年度は1件継続して活動することができた。